

野生司香雪画伯 略年表

明治 18 年	1885 年	0 歳	11月5日、香川県香川郡檀紙村(現在の高松市檀紙町)に僧侶の長男として生まれる。本名は述太(のぶた)。
明治 32 年	1899 年	14 歳	堂山高等小学校を経て、香川県工芸学校(現在の香川県立高松工芸高等学校) 金属工芸科に入学。
明治 36 年	1903 年	18 歳	香川県工芸学校を卒業し、東京美術学校(現在の東京藝術大学) 予備課程の金属工芸科に入る。
明治 38 年	1905 年	20 歳	東京美術学校制度改革による日本画科の新館に入り、下村観山が担任となる。
明治 40 年	1907 年	22 歳	東京勧業博覧会美術展覧会に「しずか」を出品し入選。
明治 41 年	1908 年	23 歳	東京美術学校日本画科を卒業。卒業制作は「黄泉」。東京銀座の三上呉服店に図案描きとして就職。
明治 42 年	1909 年	24 歳	関侂喜(いつき)と結婚。香川県善通寺十一師団輜重兵第十一大隊に1年間入営。
明治 43 年	1910 年	25 歳	東京府東京市下谷区谷中坂町に新居を構える。
明治 44 年	1911 年	26 歳	橋本閑雪らとともに美術研精会の正会員となる。東京美術学校の東台画会が結成される。以後、美術研精会や東台画会に作品を発表。
大正 3 年	1914 年	29 歳	淑徳高等女学校に図画講師として奉職。雅号を一時「隣山」に改める。再興日本美術院の研究会員となる。
大正 5 年	1916 年	31 歳	再興日本美術院の院友となる。
大正 6 年	1917 年	32 歳	元通信次官であった前島密の支援を得て仏教美術研究のためインドへ渡る。
大正 7 年	1918 年	33 歳	1月、荒井寛方が国華社から依頼されたアジャント壁画の模写に協力参加。現地で桐谷洗鱗に会う。模写絵は帰国後、東京日本橋倶楽部で展示公開される。
大正 8 年	1919 年	34 歳	大阪朝日新聞社、京都帝室博物館(現在の京都国立博物館)で「アジャント壁画模写展」開催。
大正 9 年	1920 年	35 歳	この時期、梵語やインド哲学の勉強をして研究者などと交流を深める。
大正 12 年	1923 年	38 歳	9月、関東大震災で東京帝国大学に保管中のアジャント壁画模写絵がすべて焼失する。
昭和 7 年	1932 年	47 歳	7月19日、桐谷洗鱗の急死により、インド初轉法輪寺壁画揮毫の後任に選ばれ10月26日に東京出発。11月25日、カルカッタ到着。歓迎会が開催され詩聖タゴールも出席。12月20日サルナートに到着。
昭和 8 年	1933 年	48 歳	1月13日、最初の壁画「降魔成道」を壁上。5月、避暑地のシムラに向かう。ネパール王子ゼネラルカイザーの招待でネパールに入国。カルカッタで下図を紹介する個展を開く。
昭和 9 年	1934 年	49 歳	4月、17画題14面、半分の壁画が完成。資金難のためボンベイ、カルカッタ、コロンボなどで個展を計画。9月、ボンベイで個展開催。
昭和 10 年	1935 年	50 歳	10月コロンボで個展。11月マドラスで個展。
昭和 11 年	1936 年	51 歳	2月、カルカッタで個展。4月、すべての壁画が完成。ブツダガヤに向かう。4月15日、日本に完成報告の打電。5月7日(または17日)、壁画完成開眼供養。その後も最終手直しを続ける。9月3日、サルナートを出発。9月15日、カルカッタから帰国の途につく。途中シンガポールで個展開催。12月28日、神戸に到着。30日、東京駅で盛大な歓迎を受ける。
昭和 12 年	1937 年	52 歳	第4回香川県美術総合展覧会(現在の県展)の日本画審査員となる。帝都教育会附属教員保姆伝習所図画教員となる。
昭和 15 年	1940 年	55 歳	この頃から長野県の善光寺雲上殿の壁画制作の準備を本格的に始める。
昭和 18 年	1943 年	58 歳	単身で長野へ疎開し、善光寺雲上殿の壁画制作に備える。
昭和 20 年	1945 年	60 歳	自宅が空襲で焼失。
昭和 21 年	1946 年	61 歳	長野市仏教会の顧問格となり、仏教舞踊の創作などを行う。長野在住の作家らと白炎社を結成し展覧会を開催。
昭和 22 年	1947 年	62 歳	善光寺雲上殿の壁画が完成。
昭和 23 年	1948 年	63 歳	4月、初轉法輪寺の壁画下絵を福井県の永平寺に献納。香川美術会を発足し会員となる。
昭和 24 年	1949 年	64 歳	4月23日、善光寺雲上殿落慶法要。栗林公園の商工奨励館で個展を開催。
昭和 26 年	1951 年	66 歳	インドより聖牛である白牛のナンダニー(歓喜)、カルヤニー(希望)、ダルマ(法)の3頭を善光寺に迎える。
昭和 27 年	1952 年	67 歳	山ノ内町(現在の長野県下高井郡山ノ内町) 洪温泉の不動山荘に移り住む。
昭和 29 年	1954 年	69 歳	第2回世界平和会議の代表が不動山荘を訪ねてくる。
昭和 30 年	1955 年	70 歳	仏教伝道協会より「釈尊絵伝」全12枚の制作を依頼される。
昭和 31 年	1956 年	71 歳	埼玉県鳥井観音(名栗観音)の壁画を依頼され翌年完成。
昭和 32 年	1957 年	72 歳	4月、「釈尊絵伝」の制作に着手。11月、「成道」の案を練る。
昭和 33 年	1958 年	73 歳	東京池袋三越の第2回現代仏教美術展に出品。
昭和 33 年	1958 年	73 歳	2月、「成道」の浄書(清書)、「出城」署名を追加。「托胎」加筆。
昭和 34 年	1959 年	74 歳	4月、「涅槃」着手。6月、「転法輪」着手。7月、「涅槃」完成。7月22日、着想30年の喜びを手紙に書く。8月、「転法輪」完成。8月～9月、複製印刷の校正。11月、額縁の完成。
昭和 36 年	1961 年	76 歳	7月、沼田恵範と「牧女の供養」制作についての相談か。
昭和 37 年	1962 年	77 歳	再び脳出血に倒れ新生病院に入院。
昭和 48 年	1973 年	88 歳	仏教伝道協会より「仏教伝道功労賞」を受ける。3月28日、新生病院で没。

※略年表は、『野生司香雪回顧展』(香川県文化会館、1986年)、『野生司香雪 仏画の世界』(信濃毎日新聞社、1987年)、
溝茂茂樹・中村義博『野生司香雪—その生涯とインドの仏伝壁画—』(福生、2016年)などを元にして、
野生司香雪から沼田恵範への手紙などの情報を付け足して作成